

機関番号：35413

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20520541

研究課題名（和文）情報爆発型社会における ESP 研究プラットフォームサイトモデルの構築

研究課題名（英文）Designing a Platform Site for ESP Research in an Information-Explosion Society

研究代表者

森口 稔 (MORIGUCHI MINORU)

広島国際大学・国際交流センター・教授

研究者番号：40389094

研究成果の概要（和文）：ESP 文献総覧データベース、ニーズ分析データベース、教材アーカイブ、ビデオアーカイブの4つのデータベースを構築し、ESP 研究プラットフォームサイトの基礎とした。また、ESP 研究プラットフォームを紹介するとともに、ビデオアーカイブ構築の一環として講演を収録するために、ESP セミナーを実施した。さらに、ESP 研究プラットフォームの概要と、セミナーでの講演に基づいた論文をまとめた冊子を発行した。

研究成果の概要（英文）：We constructed four databases, including “ESP Reference Database,” “Needs Analysis Database,” “Archive of ESP Teaching Materials,” and “Video Archive of ESP Lectures,” which are supposed to be basic contents of a platform site for ESP Research. We also held an ESP seminar to show the design of the platform site and to record ESP lectures for the video archive. In addition, we issued a report that contained articles based on the lectures in the seminar.

交付決定額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|-----------|-----------|
| 2008年度 | 1,600,000 | 480,000 | 2,080,000 |
| 2009年度 | 1,500,000 | 450,000 | 1,950,000 |
| 2010年度 | 500,000 | 150,000 | 650,000 |
| 総計 | 3,600,000 | 1,080,000 | 4,680,000 |

研究分野：テクニカルコミュニケーション、辞書学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：ESP、データベース、アーカイブ

1. 研究開始当初の背景

ESP 研究者が文献情報を得るためのツールの一つに国立国会図書館の文献検索があるが、ESP 関連の情報収集に限って言えば、このシステムはかなり非効率なものである。たとえば、2001年以降の雑誌記事検索で「ESP」をキーワードとして検索すると、研究開始前の2007年9月現在、788件がヒットしたが、それぞれの記事は、ESPcially といった単語や、enhanced serial port など別の複合語の略語である ESP がヒットしており、English for Specific Purposes の意味での ESP は数えるほどしか見当たらなかった。一方、ESP の重要概念の一つである「ニーズ」と「ESP」

の両方をキーワードとして検索した場合、13件がヒットし、そのうち11件は求める ESP 文献であったが、その両方のキーワードを含む重要文献である、寺内(2006)が検索されないというような問題が数多く見られた。さらに、教科書、シラバス、ホームページなど、研究文献以外の情報を包括的に得られるサイトは当時存在しなかった。このように、研究のための情報収集の環境が整備されていないため、内容的に類似した研究や調査報告が重複して発表されている例が散見されるという背景があった。

2. 研究の目的

上述のような背景を踏まえ、本研究は、ESP 研究分野をターゲットとして、研究者が、ESP 関連情報を「網羅的に」かつ「素早く」収集できるような ESP 研究の土台となる「研究プラットフォームサイト」を構築することを目的とした。このサイトは、ESP 文献総覧データベース、ESP 研究者総覧、ニーズ分析データベース、ESP 関連ホームページへのリンク、ESP 授業や講演のビデオおよび教材アーカイブの5つのデータベースで構成することを意図した。

3. 研究の方法

各データベース別に担当を割り振り、研究者の人的ネットワークに呼びかけて、データ提供の協力を受けながら作業を進めた。データベースの検索ツールは、研究分担者である神谷が開発を担当し、全体の進捗は研究代表者である森口が管理することとした。作業の進捗状況に加えて、権利関係や個人情報の観点から、研究者総覧、ビデオアーカイブなどは見直し、必要に応じてデータベース同士の統合や分割も行った。

4. 研究成果

(1) ESP 文献総覧データベース

①プラットフォーム構想の中核となるデータベースであり、国内の論文、記事、書籍、研究報告書、学位論文、シラバス、口頭発表の書誌情報を提供する。また、各データは、人文系、社会系、理工系、医療系、学際的領域・その他、全般の6分野のいずれかに分類され、データベース利用者は分野から文献を探すことも可能となる。ESP 関連文献の定義や分野の選択は入力者に一任し、特に管理は行わなかった。現在、909件のデータが収録されており、内訳は、論文 214 件、記事 24 件、書籍 93 件、研究報告書 39 件、教科書 303 件、学位論文 5 件、ホームページ 12 件、シラバス 13 件、口頭発表 206 件となっている。

②さらに、論文データの内訳は、人文系 9 件、社会系 63 件、理工系 45 件、医療系 26 件、全般 60 件、学際的領域・その他 11 件となっている。それぞれの分野においては、社会系ではビジネス商業英語が多く、人文系には、文学、ファッション、理容・美容などが見られる。「学際的領域・その他」と「全般」とは切り分けがうまくなされておらず、見直しが必要と考えられる。文献の年代としては、1988 年から 2008 年までが収録されており、2009 年以降のものはまだ収録されていない。

(2) ニーズ分析データベース

①情報収集に際しては、まず初めに Web サイトを作成し、大学英語教育学会 (JACET) の ESP 関連の会議や研究会において情報提

供を呼びかけた。さらに、科学研究費補助金データベース、Google Scholar を利用して、「ニーズ」、「英語 (外国語) 教育 (学習)」をキーワードにした検索を行い、資料の収集を行った。2010 年 12 月現在では、合計 94 点の資料を収集することができた。

②入手資料については、論文名 (課題名)、著者名 (研究者名)、発行年などの研究基本情報に加えて、ニーズ分析関連の資料として重要となる「調査方法」、「調査対象」、「調査人数」、「調査内容」、「備考 (論文などに含まれた具体的な資料)」、「URL (論文などの現物を入手できるインターネットサイト)」を一覧としてまとめた。一覧については、Web サイト (<http://www.naito-lab.net/needs/>) において公開している。また、入手資料の情報検索ができるように、JACET ESP Database (<http://www.antlab.sci.waseda.ac.jp/espdb/>) に登録を行った (ただし、JACET ESP Database は、2010 年 12 月現在、会員登録しなければ利用することができない)。研究基本情報以外の各項目については、研究分担者である内藤が入手資料を実際に閲覧して、記載内容を決めて行くという方法を取った。

(3) 教材アーカイブ

①まず、大学英語教科書を出版している大手出版社 9 社の大学英語教科書から、現在流通している ESP 大学教科書を取り寄せ、それらの教材のデータ 273 件を蓄積していった (2010 年 5 月時点)。当該教科書取り寄せ方法であるが、恣意的に教科書を指定して取り寄せたのではなく、協力してくれた出版社が、ESP 教科書として出版しているものを網羅的に送ってもらうという方法をとった。その後、研究分担者である深山と研究協力者の椋平の 2 人で、専門分野(Field)・タイトル(Title)・著者(Author)・編者(Editor)・使用言語(Language)・出版社(Source)・出版年(Date)・ページ数(From-To)・ジャンル別(Key words)・備考(Comment)を分析し、基本情報とした。キーワード欄には、ジャンル分析アプローチを用いているかどうか、備考欄には、レベル・スキル別分析結果など付加情報を入力している。

②分野に関しては、日本の大学英語教科書は、「理工系」と「医療系」を含む「理系分野」が圧倒的多数を占め、「文系分野」の ESP については、海外の教科書に頼っていること、細目分野としては、「理系分野」では「理工」が圧倒的多数を占め、「文系分野」では「ビジネス」が多いことが分かった。

③内容については、全市販教科書のうち、76 パーセントは、それぞれの分野の話題を集めて専門用語や表現に焦点を当てた EGSP(English for general specific purposes)教科書と分類されるものであり、

ジャンル分析の視点を取り入れた本格的 ESP 教材は、24 パーセントしかなかった。

(4) ビデオアーカイブ

当初は、ESP の授業や ESP に関連する講演やセミナーをビデオに収録することを目的としたが、授業や学会講演は権利関係が問題となるために断念し、関西 ESP 研究会における講演 10 件と本プロジェクトの一環としての ESP セミナーにおける講演 11 件をビデオアーカイブとして録画した。

(5) ESP 研究者総覧

研究者総覧の存在意義はあると考えられるが、個人情報の観点から構築を断念した。

(6) ESP 関連ホームページ

データベースとしての十分な件数がまだ集まっていない。

(7) ESP セミナー

本プロジェクトの紹介、上記ビデオアーカイブへの収録、ESP の普及を目的として、2010 年 2 月に、以下の内容でセミナーを開催した。

「ESP の理論」野口ジュディー

「科研プロジェクト報告」森口稔

「ESP の実践」内藤永

「要約課題を通じたジャンル分析力の育成—医学部における授業実践」草薙優加

「EGP から ESP への橋渡し—生物資源科学部における授業実践」山崎敦子

「工学系 ESP の教育・研究実践報告」馬場景子

「工業英語を取り巻く教育環境」倉内早苗

「自律した学習者を目指して—グループ活動を用いたビジネス英語の授業実践」山内ひさ子

「観光英語の授業実践」椋平淳

「ジャンル導入教材としてのポップソング」

「実践報告総括」山内ひさ子

「ESP の展望」寺内一

(8) 報告冊子発行

プラットフォーム構想の概要に加えて、セミナーでの講演に基づいた論文を収録した冊子を発行した。プラットフォームは、ESP に慣れていない英語教員の使用も念頭においたことでもあり、冊子の第 1 部は、ESP の概論的な論文と、プラットフォームの概要を紹介する論文から成る。第 2 部は、各論として、セミナーでの講演を元とした分野別の報告に関する論文を掲載した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計 7 件)

①森口稔、和英辞典の訳語についての疑問、JACET 英語辞書研究会第 12 回ワークショップ、2010 年 12 月 11 日、早稲田大学 (東京)

②森口稔、わかりやすさのストラテジー～テクニカルコミュニケーションへの招待、日本コミュニケーション学会関西支部大会、2010 年 11 月 7 日、大阪大学中之島センター (大阪)

③森口稔・神谷健一、ESP プラットフォームの構築に向けて、大学英語教育学会第 48 回全国大会、2009 年 9 月 5 日、北海学園大学 (北海道)

④森口稔、マニュアル翻訳に役立つパラレルコーパス構築の提案、テクニカルコミュニケーションシンポジウム 2009、2009 年 8 月 25 日、工学院大学 (東京)

⑤森口稔、語彙関数とは何か、関西英語辞書学研究会特別シンポジウム・慣用語研究の諸相、2009 年 5 月 2 日、京都キャンパスプラザ (京都)

⑥森口稔、ESP アーカイブの作成、大学英語教育学会関西支部 2008 年度第 2 回講演会 ESP 研究会特別シンポジウム、2008 年 12 月 14 日、三ノ宮研修センター (兵庫)

⑦森口稔、シンポジウムに見る最近の傾向、テクニカルコミュニケーションシンポジウム 2008、2008 年 8 月 26 日、工学院大学 (東京)

[図書] (計 2 件)

①寺内一、大修館書店、「教材開発」：大学英語教育学会英語教育学大系第 4 巻『21 世紀の ESP—日本型 ESP 理論の構築と実践』、2010、225-231

②寺内一、深山晶子、大修館書店、「教材開発」：大学英語教育学会英語教育学大系第 4 巻『21 世紀の ESP—日本型 ESP 理論の構築と実践』第 3 章 1 節、2010、45-62

[その他] (計 5 件)

ホームページ等

①ESP 関連文献総覧データベース 検索ツール for Windows XP/Vista/7

(http://www.oit.ac.jp/ip/~kamiya/esp_archive/ESP_Bunken_Search_20101201_win.zip)

②ESP 関連文献総覧データベース 検索ツール for MacOS X

(http://www.oit.ac.jp/ip/~kamiya/esp_archive/ESP_Bunken_Search_20101201_mac.zip)

③<http://www.naito-lab.net/needs/>

④http://www.oit.ac.jp/ip/~kamiya/esp_archive/

⑤森口稔、神谷健一、寺内一、内藤永、野口
ジュディー、深山晶子、幸重美津子、草薙優
加、山崎敦子、馬場景子、倉内早苗、山内ひ
さ子、椋平淳、服部圭子『情報爆発型社会に
おけるESP 研究プラットフォームサイトモ
デルの構築』、2011

6. 研究組織

(1) 研究代表者

森口 稔 (MORIGUCHI MINORU)
広島国際大学・国際交流センター・教授
研究者番号：40389094

(2) 研究分担者

神谷 健一 (KAMIYA KENICHI)
大阪工業大学・知的財産学部・講師
研究者番号：50388352

寺内 一 (TERAUCHI HAJIME)
高千穂大学・商学部・教授
研究者番号：50307146

内藤 永 (NAITO HISASHI)
旭川医科大学・医学部・教授
研究者番号：80281898

野口 ジュディー (NOGUCHI JUDY)
武庫川女子大学・薬学部・教授
研究者番号：30351787

深山 晶子 (MIYAMA AKIKO)
大阪工業大学・知的財産学部・教授
研究者番号：80301646

幸重 美津子 (YUKISHIGE MITSUKO)
同志社大学・言語文化研究センター・非常勤
講師
研究者番号：00469082